

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「暖かき人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切に社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	---

今年度の重点目標	1. 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 2. 規律ある生活態度の育成・徹底 3. 望ましい人間関係の構築 4. キャリア教育の推進と充実・早期の進路決定
----------	--

評価基準
 A：ほぼ達成 B：概ね達成 C：まだ不十分 D：方策の見直し
 (90%程度) (70%程度) (50%程度) (30%以下)

年度当初				評価結果(10月)				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格取得	○個々に応じた学習意欲の喚起	○不登校傾向等により学習の空白時間を有する生徒も多く、基礎学力の定着(主に英語・数学)が充分とはいえない。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開が図れる。	○生徒にとって分かりやすく魅力ある授業づくりに努め、基礎学力の向上を図る。特に1年生は習熟度別の時間を設け英語・数学と苦手な分野を克服し、自信をつける。	○分かりやすい授業とそうでない授業との差がある。1年生の習熟度別の時間では中学校の英語・数学の復習から行っている。	B	○授業に臨むまでの準備を徹底することにより先生間での差を小さくする。1年生の習熟度別の時間は継続していく。	B	○授業準備の徹底は行ったが指導スキルの差が表面化した。	○より生徒が意欲的に分かりやすいと思える授業展開ができるようスキルアップしたい。
	○授業の質の更なる向上	○職員間による授業の質に差がある。	○授業の質向上のために、職員の自己研鑽が日々行われ、定期的に研究授業を実施する。	○自己研鑽の評価として様々な資格に挑戦する。研究授業をすることで授業に対する職員の意識を高め、授業の質を高める。	○教職員それぞれが必要な資格に挑戦し、取得することが出来た。研究授業を実施し、分かりやすい授業のスキルアップに努めた。		○引き続き資格取得、研究授業を実施し、授業の質を上げていく。		○年間を通して資格取得を意識し、取得することができた。	○さらに上の級を目指し資格取得・自己研鑽に力を入れたい。
	○個別学習室(勉強室)の生徒の学力の向上及び、授業や指導方法の改善を図る。 ○資格取得率の向上	○教室にどうしても入れない生徒数名が個別学習室で学習しているが計画的な質の高い指導が出来ていない。 ○全校生徒が受検する検定試験(漢字検定44%・パソコン検定52%)の合格率である。	○自己の目標の達成のために意欲的・自立的・計画的に学習する姿が見られる。	○漢字検定合格者が50%以上、パソコン検定合格者が55%以上かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。今年度から実施する数学検定の合格率の向上。	○資格を取得する意義を浸透させ、意欲を高め、反復練習(表による見える化)によって更に合格率を高める。		○資格取得に対する意欲の差が生徒にあることと、上位級の受検者が増え取得が難しくなっている。(漢字検定44%・パソコン検定52%)		○引き続き生徒に合った教材を準備し、指導を行う。	○特に上位級受検者への合格率を高めるために『資格』の時間を確保していく。
規律ある生活態度の育成・徹底	○学校の規律やルールの遵守、公共の場でのマナー向上	○身だしなみを整えられない生徒・時間を守れない生徒が一部見られる。	○社会で通用する身だしなみと生活習慣が身に付いている。	○月に一度、服装検査を実施することで「身だしなみ」の確認を行う。登下校時、毎日職員が由良駅まで行き、公共施設でのマナーの向上を図っていく。	○生徒の一部は未だに身だしなみを整えられない者がいるが、公共の場でのマナーは良くなってきている。	C	○身だしなみを整えられない生徒には声かけを徹底していく。	B	○月一回の服装検査や玄関等での声掛けにより身だしなみは徹底できつつある。	○春休み明けから再度身だしなみや生活習慣の徹底を図りたい。
	○積極的な挨拶の定着を図る。	○自発的に挨拶できる生徒が多くなく、習慣化していない。	○挨拶をする習慣が身につけている。	○職員から挨拶を元気づけることにより円滑なコミュニケーションを図る。	○まだまだ自発的な挨拶は少ないが、返せるようにはなってきた。		○名前を呼んで挨拶することにより自分のこととして捉える傾向があるのでそれを徹底していく。		○名前をつけて挨拶することで挨拶を返す場面が増えてきた。	○自発的に挨拶をする習慣を身につけさせる方法を模索していきたい。
	○清掃活動の習慣化校舎内の清掃等、環境整備が十分に行われている。	○掃除を人任せにする生徒が一部見られる。	○自らが率先し毎日清掃活動を行っている。	○日ごろの清掃活動の取り組み指導、それに合わせて施設やモノを大切に使用する意識を持たせる。	○率先して行う生徒が増えたが、人任せにする生徒がほんのひと握り見られる。		○人任せにする生徒を責任者にするにより、自覚を持たせて行く。		○責任を持たせることで清掃は実施するようになったが、まだ自発的とは言えない状況である。	○学校に愛着を持たせ、率先して清掃を行うような工夫をしていきたい。
望ましい人間関係の構築	○信頼し合える関係作り	○他人に対し壁を作り、心を開くことが出来ない生徒が見られる。	○生徒同士、生徒・保護者と職員同士が認め合い何でも話せる雰囲気がある。	○日頃の会話から否定しないことを心がけ、お互いがお互いのことを認め合える雰囲気を作り、定期的な保護者との情報交換に務める。	○日常会話から否定しないことを心がけ、認め合える雰囲気を作り、定期的な保護者との情報交換に務めることが出来ている。しかし、生徒間ではネガティブな言葉を発する生徒が一部見られる。	B	○ポジティブな言葉を意識して選ばせ、発していくように注意を促す。	B	○ポジティブな声かけによりポジティブな言葉が出てくるようになってきた。	○言葉は意識の現れなので自分や他人を大切に心や向上心を育む必要性がまだある。
	○クラスでの仲間作り、学校全体での仲間作り	○学年を超えた仲間意識が希薄になっている。	○全校生徒が仲良く、楽しく、協力し合いながら生活している。	○少人数クラスを活かし生徒への目配りと授業担任との情報交換により生徒の人間関係を把握する。また、学校行事・選択授業・体育において学年を越えて全校で協力して活動していく。	○クラスでは助け合ったり、教え合ったりの優しい雰囲気があり、選択授業では学年を越えた交流が出来ている。		○継続して楽しく協力的な雰囲気を作っていく。		○多少の人間関係のもつれがあったが年間を通してクラス・全校とも分け隔てなく楽しく生活できた。	○クラスでの居場所づくりがあったが年間を通してクラス・全校とも分け隔てなく楽しく生活できると思うのでクラス運営を引き続きしっかりとしていきたい。
キャリア教育充実・早期進路決定	○幅広い視野・職業観の更なる育成	○視野がとても狭く、偏っていると同時に職業に関する知識が少ない。	○生徒が幅広い選択肢の中から進路目標を見つけ、その実現のために日々努力している。	○職業人講話を実施することにより社会人としてのマナーの習得や職業理解を深める。と同時に視野を広げる。出前授業・学校見学・ボランティア体験を実施することにより進路に関する選択肢の幅を広げる。	○職業人講話を2回実施し、視野を広げることが出来ている。	B	○職業講話の回数を重ねて更に視野を広げていく。	A	○職業講話の回数を重ねることができたし、一般に公開することもできた。	○魅力ある人物・テーマの職業講話を重ね、仕事や生き方の視野を広げていく。
	○進路希望と適性に対する自己理解の更なる促進	○自己理解が乏しく、なりたい自分が見えていない生徒が多く見られる。	○自己を理解し、理想の自分を見つけている。	○ハローワークと連携して、定期的に進路面談を実施することにより、自己理解を促し「なりたい自分」を見つかる。	○総合の時間でキャリア教育を行い、「なりたい自分」を見つけている。		○校内だけでなく、ハローワークとも連携して自己理解を促していく。		○総合の時間でキャリア教育・面談やハローワークとの連携により充実したものになった。	○継続して外部(ハローワーク等)とも連携をとりながら進路希望や自己理解を深めたい。
	○進路実現に向けての早目の具体的な行動化	○漠然とした目標のため具体的な行動を起こせていない生徒が見られる。	○自らの進路について真剣に考えることで、具体的な行動を起こしている。	○就職希望者は職場見学・体験を実施する。就職セミナー等にも参加し、就職に関する学習の機会(面接練習・履歴書の書き方・求人表の見方等)を増やし、早目の行動を意識させる。また、進学希望者は興味のある学校へのオープンキャンパス等に積極的に参加する。放課後に中央予備校とタイアップし学力アップを図る。	○就職希望者はハローワークと連携しながら夏休みを上手く利用し、職場見学を実施。就職セミナーにも積極的に参加し、早目の行動に移し、就職内定に結びつけている。進学希望者も積極的に動き、合格へと繋がられている。		○就職希望者、進学希望者とも未決定の生徒には早めの行動に移せるように指導を続けていく。		○ほとんどの3年生は卒業までに進路決定することができた。未定の生徒はハローワークと連携をとりながら卒業後もサポートしていく。在校生もこの春休みに動き出しおり良いスタートが切れている。	○早く動いた生徒から決まっていた。また、能力の有無によって断られたケースもあったので基礎学力(特に数学)の向上に努める必要がある。
	○ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。	○地域ボランティアへ積極的に参加する生徒が少ない。	○自ら率先してボランティア活動や地域貢献する姿勢がある。	○進路とからめてボランティア活動の有意性・有用性を伝えていく。	○ボランティア活動(福祉関係・北栄町関係)を8回実施した。	○率先してボランティアを行う生徒が増えてきたので、今後はその輪を大きくしていく。	○初めてのボランティアには抵抗があるが一回経験するとその後の参加率は極端に上がった。	○どの生徒にも早い時期にボランティアを経験させ、人としての幅や視野を広げていきたい。		